

令和4年度（第1回）山鹿市総合教育会議 議事録

日 時	令和4年10月24日（月） 10時00分
場 所	山鹿市役所（4階401会議室）
出席者	早田市長 堀田教育長 教育委員：野中委員、上田委員、野口委員、立山委員 市 職 員：大林総務部長、渡邊教育部長、園田教育部次長、吉野首席教育審議員、 佐藤教育総務課長、井上社会教育課長、徳永教育総務課総務企画係長
傍聴者	なし

- 1 開 会
- 2 議 題
文化振興施策について
- 3 その他
(1)次回開催について
(2)その他
- 4 閉 会

発言者	発言内容
徳永教育総務課総務企画係長	<p>令和4年度第1回山鹿市総合教育会議を開催します。</p> <p>開会に際しまして、議題と会議の公開の可否について確認します。</p> <p>本日の議題は、「文化振興施策について」となっております。</p> <p>この議題につきましては、非公開とすべき事由がないことから、本日の会議、及び議事録につきましては公開といたします。</p> <p>また、会議の時間は、1時間程度を予定しておりますので、ご協力の程よろしく申し上げます。</p> <p>なお、本日の傍聴者の方はおられません。</p> <p>それでは議題に入ります。早田市長に会議の議長をお願いします。</p>
早田市長	<p>皆様、おはようございます。</p> <p>日ごろから山鹿市の教育関係におきましては教育委員の皆様には大変お世話になっております。</p> <p>本日は、文化振興の施策についてということですが、全般的に考えまして山鹿市とはどのようなイメージなのかということについていつも考えていますが、カルチャースポーツセンターがありますので、どちらかと言いますとスポーツに力を入れているイメージがあります。文化関係につきましては、そこまでないようなイメージがあります。</p> <p>ですので、文化振興の施策について、これまでどのような事業を行ってきたのかを一回全部、表に出して、子どもたちのための事業なのか、或いは社会人向けの事業なのか、或いは古墳関係の事業など、どこに力を入れているのかを明確にしていく必要があると思います。その中で山鹿市として足りないところ、これから文化施策として目指すべきものなどを皆様からご意見をいただきながら進めていけたらという思いです。</p> <p>本日は、いろんなご意見をいただければと思いますので、よろしく申し上げます。それでは、事務局より、文化振興施策について、担当課から説明をお願いします。</p>
井上社会教育課長	<p>当市の文化振興施策について説明します。</p> <p>1ページをお開けください。国・県・本市の文化振興施策について記載しています。</p> <p>本市では、山鹿市総合計画後期基本計画及び、2ページの第4次山鹿市教育振興基本計画にのっとり、実施しています。</p> <p>山鹿市教育振興基本計画ですが、資料の9ページから第4次山鹿市教育基本振興基本計画の概要版について説明しております。</p> <p>次のページをご覧ください。教育委員会は山鹿市の教育がめざす方向を山鹿市教育大綱の基本理念で「古人（いにしへ）に学び つながり 支えあう ふるさと山鹿の創造」として昨年度、決定しております。</p> <p>その中に3つの基本方針を設定しております。基本方針の1番目が「ひと輝く」、2番目が「きずな結ぶ」、3番目が「みらい彩る」で、その下に基本目標を設定しています。文化振興業務につきましては、主に基本方針Ⅱの「きずな結ぶ」と基本方針Ⅲの「みらい彩る」に組織体系を構築しまして、文化振興の施策を実施しております。</p>

2 ページ・3 ページをご参照ください。文化団体の育成支援で、山鹿市文化協会と民俗芸能団体の現状と課題、取組等について記載しています。

山鹿市文化協会におきましては、会員の高齢化が進み、会員の確保が課題です。民俗芸能団体におきましても、後継者不足で解散したり、活動を休止している団体もあり、後継者育成が喫緊の課題です。引き続き、支援を行い、活動の活性化を図ります。

山鹿市文化協会の現状と課題の最後に、現在、組織を強化し文化芸術活動を活性化することを目的に、支部制を廃止し、山鹿市文化協会として統合する組織改編を検討中であると記載しておりますが、これにつきましては協会で議論されておりますけれども、もう一つの方向性として現在の支部制を維持しながら組織体系を強化するという事も考慮しながら協会としても検討されているということです。そこは訂正させていただきます。

3 ページ・4 ページをご参照ください。

本市の将来ビジョンである山鹿創生と山鹿学の推進ということで、子どもたちの郷土愛を育む事業と未来の山鹿を担う人材育成事業について記載しています。

子どもたちの郷土愛と誇りを育む事業としましては、昨年度から取り組んでいます山鹿郷土かるた事業、旧鹿本町から取り組んでいます立志の道事業、古代史巡回バス事業があります。

未来の山鹿を担う人材育成につきましては、山鹿創生塾事業、国際交流事業を実施しています。特に早田市長の公約事業として、「古代史巡回バス事業」と「山鹿創生塾事業」については、昨年度から取り組み、本年度から本格的に事業を展開しています。

4 ページ・5 ページをご参照ください。

広義の文化振興施策には文化財の保存と活用も含まれます。

本市は文化財の宝庫であり、文化財を安定的に保存し、次世代に引き継ぎながら、活用を推進し、地域振興や観光振興に資することが求められています。

その活用の例として、装飾古墳の一般公開、方保田東原遺跡のイベント事業、鞠智城普及啓発事業、菊池川流域日本遺産事業、八千代座での文化振興事業について説明しています。

特に八千代座での文化振興事業では、八千代座狂言教室、八千代座こども歌舞伎教室、優秀映画観賞会、灯籠踊りの定期公演である「八千代座物語」などの事業を実施しています。

観光課及び指定管理を受けている一般財団法人山鹿市地域振興公社との連携により、インバウンドを含めた観光客の誘致に向けての観光商品開発や、DX（デジタルトランスフォーメーション）に対応した案内なども今後展開していく予定です。

八千代座については、文化財としての保存継承に努めながら、「稼げる八千代座」を目指します。

6 ページから8 ページをご参照ください。

文化施設として、山鹿市立博物館、八千代座及び八千代座交流施設、山鹿市民交流センターの3施設について、施設の概要や利用状況等について記載しています。

山鹿市立博物館については、昭和53年4月にオープンし、今年で44年目を迎えています。これまで、整備方針等の検討が進められてきましたが、今年度、ハー

	<p>ド面やソフト面の様々な課題を整理し、よりよい方向性を示していくために、専門業者に委託して、「博物館等整備方針調査研究業務」に着手しているところです。</p> <p>八千代座については、3施設の中で一番、コロナ感染症の影響を受けている施設です。資料の後ろに博物館や八千代座の見学者等の推移のデータを掲載していますが、八千代座はコロナ感染症が流行する前と比較すると、令和2年度と令和3年度は、総入場者数は約3割まで落ち込んでいます。本年度は、約6割にまで回復していますが、コロナ感染症対策で、灯籠祭りを開催できなかったことも影響しているようです。</p> <p>八千代座については平成の大修理が終って、20年が経過し、建物及び設備について、修理したり更新したりする時期に来ています。</p> <p>今年度、八千代座保存活用計画を作成しますので、来年度以降、修理工事等を国の補助事業で行ってまいります。</p> <p>市民交流センターは、平成26年に本庁舎と同時にオープンし、文化ホール、研修施設、図書館が併設され、当市の文化振興、生涯学習の拠点施設として利用されています。</p> <p>以上、本市の文化振興施策及び文化施設の概要について説明しました。</p> <p>最後に、本市の文化振興施策体系の構築で、文化振興計画の策定について説明いたします。</p> <p>冒頭に説明しましたように、本市の文化振興施策については、山鹿市総合計画及び山鹿市教育振興基本計画により、体系的な事業展開と効率的な行政運営を図っているところです。</p> <p>しかし、文化振興施策を総合的かつ計画的に推進していくため、本市独自の文化振興計画を策定することが求められています。</p> <p>山鹿創生の実現に向け、市民一人ひとりが、心豊かに健康な毎日を送り、郷土を愛し誇れる文化行政を展開していくため、来年度より、文化振興計画の策定に取り組む予定です。</p> <p>以上簡単ですが、文化振興施策についての説明を終わります。</p>
早田市長	<p>ただいま説明がございましたが、本日は各委員さん方から文化に関する思いを述べていただいて、答えをだす場面ではありませんので、いろんな話をさせていただければと思います。</p> <p>文化関係ですが、合併しまして17年ぐらい経ちますけれども、1市4町の文化にもそれぞれ違いがありますし、違いがあっていると思います。それぞれの特徴をもっともっと表に出して発信したいという思いがあります。</p> <p>古墳や八千代座等いろんなものがございますけれども、発信力が弱いのではないかと思います。文化と観光といいますか、継承するだけではなくて観光に結びつけるような取組もどんどんやっていきたいと思っています。どちらかと言いますと文化の材料で、お金を稼ぐではないですが、そういう事もやっていっていいのではないかと思います。</p> <p>それでは、文化に関する考えを述べていただければと思います。</p>
野口委員	<p>地域を元気にする自治体の文化行政については、教育大綱を作る時からいろいろな文献を読んだりして考えるのですが、なかなかこうだという道が開けません。</p>

	<p>ただ、一方でこの文化行政の重要性というのは分かります。市長が言われている山鹿創生についても、私たちが作りました教育大綱の基本理念についても、そういうのを先に進めるためにはやっぱりそこには文化行政がどういう役割を持ってどうやるかが大事だということは分かります。じゃあどうするかということですが、私はこの分野に携わってきていないので、なかなか分かりませんが私は仕事をするのは人だと思います。その人を育てないと、仕掛けを作る人、そういう人を育てていかないと物事は動いていかないのではないかと思います。</p> <p>例えば、博物館について専門家に委託をしているんなことが提言として出てくるのでしょうが、博物館を造ったとしても、その博物館にちゃんと専門の人を置かないと役割を果たせないのではないかと思います。山鹿市の規模ですからどれぐらいの人が割けるか分かりませんが、そういう人をきちんと置かないと本来の目的は達成できないのではないかと思います。</p> <p>いろんな行政の仕事をする中で、誰かがいろんな勉強をした中で、いろんな事例を知った中で山鹿市としてはこういう仕掛けでいこうか、或いは先ほど説明でありました子どもたちの郷土愛と誇りを育む事業がありましたが、全体像を描ける人、例えば小学校の低学年でかるたをやっていますけど、山鹿のいろんなことを言葉だけでもすらすら言えるように、かるたの中身をすらすら言えるようにする。</p> <p>高学年になると、新しい事業がありますが、その中から興味のあるものを深堀していこう。そして、中学校、高校になると地域のことが分かった上で未来に向けてどういうことをやるんだと、国際理解をしていこうというような大きな流れを描ける人、その中でそのためにどういう事業をやるんだと、どういう姿にするためにどういう事が必要だというような人づくり、山鹿市の職員でいろんな方がいらっしやるとは思いますけれど、やっぱり動かすのは人です。そこがどうしても気になります。今の博物館でも学芸員が常駐している訳でもないですよ。</p> <p>そういった中で、博物館は本来の役割を果たしなさいというのは無理な話です。もし造るならばそういう人を配置して、その人たちが上手く動けるようにしてあげることが私たちの仕事ではないかと思います。</p>
早田市長	<p>今、野口委員の話がありましたけれども、私も市長になって思っているところがあって、いつも職員の人たちがある程度集まった時には、考える力をつけてくださいと言っています。どうしても職員さん方は通常の業務がありますので、去年やった事業を継続してやる傾向にあります。だから、それで手一杯なんですけど、そこを新しい発想と言いますか、新しいことを考える、そういう力をつけてほしいというのが一番にあります。</p> <p>そういうのを研修などでやっていかなければならないと思いますが、例えば博物館を構想するとなった時も今はコンサルに投げかけていますけども、そこから職員だけで考える、或いは民間の人に呼び掛けていろんなアイデアを募集して、こういう博物館を造ったらどうかということをまずは職員の皆さんで考えていただきたいということです。</p> <p>博物館もお金がかかりますが、お金がいる時に、国の補助がこういうものがありますとか民間の手法がこういうものがありますとか常日頃、職員の皆さんがチェックしておかなければなりません。たぶんそれもあまりやられてないと思います。</p> <p>ですので、いろんな事業に対して情報収集、考える力、それを教育委員会の文化</p>

	<p>の人たちでしっかり考えて、民間にも聞いたりして、本当に市民目線といいますか、市民の考えを取り入れたような博物館構想などを行政の人に企画していただいたという思いがあります。これは教育委員会だけではなくて全般的な意味で人をつくる、人材育成は大事だと思っています。</p> <p>次に2ページの山鹿市の文化協会についてです。私がいつも旧山鹿の方々に言われますのが、場所がないということです。この山鹿市文化協会を統合すると、こういう会議室や交流センターが使えたりできるわけですか。</p>
野中委員	<p>文化協会のことで先ほど訂正させていただきと井上課長が言われたところは、私がいずれののではないかと指摘して訂正して下しました。</p> <p>鹿北の事務局長として、文化協会の会長事務局長会議というのが二か月に一回か一月に一回あります。定例というわけではないのですが、それに出させていただいているので、少し補足させていただきます。</p> <p>統一して、一体化しましょうということが山鹿市から出ましたが、事の発端は市長のおっしゃったような、ただで使える場所がないということから出てきたことで、それがいつの間にか一つにしなければならないということから動きができました。実は市町村合併したときに組織上は一体化しています。ですので、山鹿市全体の文化協会という規約もありますし、そこに組織図もあります。ですから一本化できていないかというところでできてない訳ではなくて、一本化の形は整っています。</p> <p>問題はそこでの組織内での事業の打ち方、そういったことなので、一本化する可否かというような二者択一の問題とはちょっと違います。</p> <p>端を発したのが、山鹿地区の公民館がなく、他は公民館があるので、鹿北は特に自由に使わせていただいておりますが、山鹿がない、中央公民館がなくなったもので、だから使えないし非常に不便であるというところから、どなたから聞かれたのか分からないけど一本化したら、そこもただで使えるみたいなことを聞かれてきて、じゃあ一本化しなければと話がでていたのですが、今年は特に会議ではこのことに特化するような形で会議をもっています。</p> <p>その中ででてきたのは、やはり各地域に残っているもの、文化水準は低いかもしれないけど一生懸命やってらっしゃる特に年配、高齢化しています、その人たちのささやかな文化の灯を消すような文化協会であってはいけない。</p> <p>これがもし各地区の、もうしないでくれとなって一本化しましたと言ったときに、どこが取り残されるかという外れの部分が取り残されます。お年寄りが何回もこっちに出てくることになります。今、非常に文化協会としてどうしたものかということで、悩んでいる状態です。</p> <p>ここからは私の思いですが、街部ではいわゆるコミセン活動ですね。公民館の活動なんか非常に活性化しています。それぞれの公民館に主事さんじゃないけど専門職員がいて、そこをリードしていくならいいですけど、それなりの方を配置してはあります。山鹿市の17年に統合した時に、文化協会は文化協会が残った、そして公民館活動は公民館活動で積極的にやろうということできて、これは私が聞いたところの話ですけど、いずれその公民館で育った人たちが文化協会に入るんだという方向できていたらしいです。ところが文化協会はそのまま入らずにコミセンの活動になってしまっている。だから当然人数は増えてはいかないという話までできてはきています。</p>

	<p>ただ、将来的なことを考えたときに文化協会の立ち位置というのは、いわゆる芸術家協会みたいな感じで、ひとつレベルを上げたところにきて、コミセンのほうを、いわゆる社会教育のほうの公民館活動のほうに移行していくということ、私は今までこっちから文化協会と思っていたのですが、文化協会のほうの活動をそれぞれ地域でできるものは地域に返して行って、公民館活動のほうに充実をしていくという方法もあるなあと最近思っています。</p> <p>ただ、もう一つ別のことも言いますと、先般も八女市の伝統工芸館を見に行きましたが、すばらしいです。いつも前を通るのですが、大したことはないと思っていましたが、行ってみますと小一時間かかります。紙すきのコーナーがあり、八女の浄瑠璃の建物があり、映像を流したり、伝統工芸品がずらっと置いてあって、専門の人がいらっしやいます。</p> <p>何が言いたいかという、リピーターになりたくなる場所です。カルチャースペースセンターなんかも非常に頑張って整備したことにより、リピーターがいるじゃないですか。ところが文化関係はじゃあリピーターになる場所が八千代座はありますが、ちょっと特化したものですよ。演目なんかも、その人たちのリピーターはいますけど、じゃあ山鹿市の文化としてリピーターになりたいなと、ここにはもう一度来たいなというような核になるもの、拠点になるもの、先ほど交流センター、図書館、展示ホールもあってという話はあったけど、その場所で何か開催されるからいつも心がけて、いわゆる友の会みたいなものがある、そこにずっと通うというような施設を山鹿市はもっていません。</p> <p>だから博物館が変わりそうな感じがしますが、リピーターを生むような、そういうふうにならないと、ただ博物館を造りましたでは文化行政としてはもうちょっとだと思えます。お金のこともあるから私はわかりませんが、でもそのあたりをととても強く望みます。</p> <p>中核になるもの。やはり箱もの優先はいけないと言いますけれど、カルチャーもあるからこそです。山鹿市には日展に出されて展示される方もいらっしやいます。だけど、じゃあ美術品をどこでみるのか、絵画をどこでみるのか、そういうのが常設されているのがないのが正直とてもさみしいです。情緒的なことで申し上げてはいけませんが、ここにいけば灯籠のことがすべてわかる、そこにいけばいつも灯籠踊りの上映があっている、どうかすると山鹿も紙すきを、灯籠のちいさな紙工芸を作る場所があって、そこに常駐している人が居てというような、そういう拠点みたいなものを時間が掛かっても市長が在職中に作っていただけたらいいなと思えます。</p> <p>文化協会の問題は、まだまだ考えないといけません。</p>
早田市長	行政としては文化協会を統合することについてはどうですか。
井上社会教育課長	本市が合併した時から、他所の団体というのはすべて一つの組織として統合しましたが、文化協会はそれぞれの町の文化協会があって、その下のほうで活動されていたので、一気にそれを山鹿市文化協会の基に組織を作り変えてしまいますと、2人とか3人とか小さい団体でやられているところが淘汰されるのではないかと、そういうところもあって、それでそれぞれの旧町単位で活動していただいて、それで、5つの協会でやるものを総合開会式を1年に一回輪番制でやっていますが、それぞ

	<p>れの活動については、今までのように旧町単位でやるのが文化活動を市民がやっていく上では一番いいという結論で、ただ、他所の団体が一つになってやられたように、まず予算が別々です。そういった予算も一つにして一つの組織でやっていくことが理想ではあったのですが、なかなか一つになることはできなかったということです。</p> <p>市としましては、一つになることが理想かとは思いますが、ただ文化協会という一つの団体がありますので、協会のほうでどういうふう組織を作り変えるかを考えていただいて、大切なのは市民が文化に接するといいますか、文化活動を行って行って元気になって、繋がりができる、地域が活性化していくことが目的に結成されている団体だと思いますので、そういったことも含めまして一番活動が活性化するような組織体制を作られるのを応援していくというところで考えています。</p>
早田市長	いままで集まって協議したことはありますか。
井上社会教育課長	毎回話し合っておられます。
早田市長	各支部の人たちが集まってですか。
野中委員	それは各支部でやります。
早田市長	それぞれではなくて、たとえば鹿央とか菊鹿とか旧山鹿とかの役員さん方が、こういう部屋に集まってですか。
野中委員	各支部には支部長と事務局長がいて理事がいます。支部長、事務局長が山鹿市の全部集まっての会議を3か月に2回ぐらい、月に1回の時もありました。
早田市長	それでも解決しないのですか。
野中委員	解決しません。
堀田教育長	<p>私の反省も含めてですが、冒頭に言われたようにこれだけ山鹿市は他に負けない財産を持っていますが、確かにPRが弱かったと思っています。</p> <p>また、これまでいろんな団体や協会を見ますとバラバラに動いています。ですので、協会と団体が一体となっているかというところもそうでもない。啓発しようにもなかなか深まらないという状況があるのではないかと思います。</p> <p>確かにスポーツと比べますとかなり啓発等をやらないと、なかなか市民には浸透しません。そこが本当に弱かったと反省しています。</p> <p>カルチャースポーツセンターあたりも、どんなスポーツがあっているか分からないと市民からの問いがあったので、やっと今年、行事板を作らせてもらいました。</p> <p>そういうことを私たちも市民から言われなくても考えなければ、市民への啓発が足らないと盛り上がらないし、イコール協会の人たちも自分の分だけは精一杯されていますが、話していますとすべて行政に頼ってきます。自分たちで何ができるか考えている団体も少ないです。そこらへんが課題であると思います。</p> <p>じゃあ自分たちで何ができるかというふうにしていくのが私たちの仕事かもしれないと思いますが、今後は具体的にそういうところを行政としてやっていかないと、先ほど言われましたように、どういう改編をするのか、ある程度行政が主体とならないとまとまらないです。それぞれが意見を言われますので、これを一つにするには、一つにならなくても良いと思います、1市4町は協会としてあってもいいと思いますが、団体がバラバラで一体となっていないので、啓発しようにも厳しいです。</p>

	<p>いろいろな取組をされていますが、市民に浸透していないものですから、輝きが今一つだと反省しているところです。</p> <p>それから野口委員が言われた人ですね。何でも人が要りますが、この間ある団体と話をしたときに、そういう学芸員などを置いていないではないかと意見が出たときにこちらから提案したのは、これまで専門性をもった人たちがいっぱいいるのですが、そういう人たちに一体となって協力してもらえるのですか。行政ばかりに頼らないでと話をしたら、いつでも手伝うという返事はあっています。</p> <p>ですので、私たちはそういう人をもっともっと発掘して、手伝ってくださいよという取組をやっていかなければならないと教育委員会内では話をしていました。</p>
早田市長	<p>今、人を上手く使おうということで、たぶん民間の活力をということだと思いますが、一番良い例がワクチン接種の最初の時に電話が繋がらないということがものすごく多かったです。それを青年会議所や商工会の青年部などにお問い合わせしたら、それぞれの場所で設置をしてくれて、予約したりすることも快く受けてくれました。</p> <p>ですので、教育長が言われたように、協力したいという人たちが市民の中にいっぱいおられるから、そこを行政として上手く取り込んでいく体制づくりをどんどんやられたほうが良いと思います。そういうのも良いと思います。</p>
堀田教育長	<p>先ほどの教育委員会でもチブサン古墳・鍋田横穴群の100周年記念はどのようなPRをしているのかという質問が出ました。そういう質問を聞いていると今までのPRの仕方、啓発の仕方で市民に徹底できるかということで本当に反省しています。どういうやり方で啓発をすると皆さんに浸透するかを、今後は教育委員会の中でも検討していきたいと思っています。</p>
野中委員	<p>文化協会のほうは現時点では一体化というのは置いておいて、まずは規約を見直してみようかというところにきています。要は文化協会の位置づけ、文化協会の役割を見直さないことには何も始まりません。そして事業と組織体をどうするかということ、この順番で、一体で見直そうということになって次の話し合いがあります。</p> <p>先ほどちょっと述べましたが、地域のことは地域で、つまりコミセンでという方向もあるよという話をこの次にしようと思っています。でもそうすると文化協会自体の位置づけを決めておかないと、文化協会はいわゆる老人会の下請けでも、趣味の会の受け皿でもないですよというところにもっていかないことには始まりません。今のところ趣味の会のようなものも半分ぐらい入っています。それは一つには人を集めなければならなかったからかもしれません、それと個人会員がいないです。そういったことがあるので、文化協会そのものの立ち位置を見直す段階にやっときたところです。</p> <p>PRということに関係しますが、昨日、茶山唄が終わりまして審査委員と反省会をしました。その中ででてきたのが、鹿北の茶山唄は鹿北でばっかりやっても山鹿市のためにならないのではないかと、それこそ何年かにいっぺんでもいいから八千代座でやる方法もあるのではないかと意見がでて、それはいいという感じになっています。具体的にしていくのはまだ、そこに保存会の人たちはいませんでしたので、ただそういう方向もあるなと思いました。</p> <p>もう一つは唄い手をもっと小さい子たちに勉強させるような場を持たなければ</p>

	<p>いけないと思いました。考えてみれば保存会の踊りは小中学校でやっけていてかなり定着してきています。だけど唄のことを正直忘れておりました。ただそれには学校の協力が不可欠です。過去、岳間小学校は全員、唄を唄っていました。だからああいった取組を一つの学年でやれるように今後、校長先生あたりとも相談をしていきたいと思っていますところでは。</p> <p>そういった取組が今後、茶山唄あたりも今後続けていって、鹿北ということだけではなくて、山鹿市になると思います。県外からも観えていますが、泊っている数はコロナ明けで少ないですが、特に今年が一番遠くから来られた愛知の方がグランプリをとっていかれたので、彼女が出られなくなるから宿泊者が一人は減ります。そういったことを考えるともっともっと仕掛けをしなければならないと思います。</p>
早田市長	<p>私も行きましたが、子どもたちは茶摘みなどをしたことがないと思います。せめてあのロケーションで茶摘みを経験しないと、本当の意味での唄が唄えないのではないかという感じがします。</p> <p>総合的にいろんなものを組合わせて、どうしたら自分から唄いたいという思いにさせるかということが大事だと思います。経験はさせるけども唄いたいと思わせなければ、灯籠も踊りたいと思わなければ、なんでも長続きしません。</p>
野中委員	灯籠は山鹿市の子供たちは踊っていますか。
堀田教育長	踊っていますがコロナ禍のためできていません。特に中学生は全員踊れるようにしてあります。
野口委員	<p>個人的に茶山唄に興味があって唄いたいと思ってもやれないですね。</p> <p>練習会があるので、行って見たのですがレベルが高くて素人にはついていけなくて。唄ってみたいという人は結構いるのではないのでしょうか、だけど本当にレベルが高くて練習会に行くにはとても、即唄ってくださいとなるので、子どもたちも大事ですけど個人的な要望です。</p>
上田委員	<p>別の話になりますが、この資料をいただいて読んでいながら感じたことを申し上げます。山鹿市の文化施策を話し合うといったときに、社会教育課から資料をいただいて、じゃあ市長部局との動きはどうか、連携はどうかということが見えてきませんでした。そのあたりの資料がないと、全体的に山鹿市としてどうするのか、どう振興を図っていくのかというところでの話がうまく出てこないのではないかと思ったのが一点です。</p> <p>それからここ1～2年で子どもたちが故郷について学ぶツールといいですか、3ページにありますように「山鹿郷土かるた事業」や「古代史巡回バス事業」、「ふるさと山鹿の歴史」の動画を含むホームページを製作し活用を図るとありますが、子どもたちが山鹿についてしっかり学ぶといういい機会になったのではないかと思います。</p> <p>今までなかったことをやられているということで、非常にこの取組はいいと思います。山鹿の歴史や文化について、今までまとめたものがありますよね、分厚い冊子が。大変苦勞されてまとめられたものだと思いますが、そのあたりからのもう一度、掘り起しが必要ではないかと思います。</p> <p>また、地域の伝統行事とか民俗芸能とか神楽とか担い手が確かに少なくなっています。いつでしたかテレビで見ましたが、ある地域ですごくいいものがあるのに担</p>

	<p>い手がないから途絶えてしまった。何十年と途絶えていたが、最近やっぱりそれを復活しようということで復活し始めたけども覚えている人がいなくて困ったということでした。こんなときに映像が大きく関わってくると思います。山鹿市の地域の伝統行事とか神楽とかいろんなものについて、例えば、「なれなれなすび」とか、そういうものの映像化はどれくらい進んでいるのかと思いました。</p> <p>これは残したいというものを映像化して残して、途絶えることもあるかもしれないけども、次のどこかで復活させるための手段として必要ではないかということです。</p> <p>それからいろんな昔の歴史や文化について、子どもたちは知らないと思います。そのきっかけとなったのが、この「ふるさと山鹿の歴史」をパソコンとかスマホですっと入っていける、そこで初めて八千代座はこんな歴史があったんだとか、鞠智城ってこうなんだというのが分かるということ。ただ、見てみますと、本当に簡単な内容なんです。もうちょっと深く知りたいという中学生や高校生、あるいは興味のある大人の方たちが知りたいと思ったときにどうするかというと、なかなかどこからどうやって入っていいのかわからない。山鹿市から出ている「風致に関する維持向上計画」を見ますとすごく内容が濃いです。だからこれは中学生・高校生・大学生には非常に参考になる資料だなと思います。</p> <p>子どもたちが「ふるさと山鹿の歴史」に入ったときに、すっと入っていけるような仕掛け、ツールが欲しいと思いました。</p> <p>先日、博物館でチブサン古墳・鍋田横穴群のオープニングセレモニーに行きましたが、そこで見て初めて、えーこういうのがあったのかというのが、山鹿口の戦いの中での薩摩の人の話なんです。一人は薩摩出身の官軍の幹部の人と、敵対する薩摩軍の3人の兵士ですね。その官軍の幹部の方が自分の国の薩摩の人が3人亡くなっているのを見て、どうもこれは忍びないということで地域の方をお願いして、自分のお金をあげて、この3人を手厚く葬ってあげてくださいと言って行かれたそうです。地域の方はそれをしっかり受け止めてお墓を作って守って、ずっと今までつながっているというのを知りました。こんな歴史もあるというのを子どもたちにも伝えたいし、そういう掘り起しをやっていただくと子どもたちが山鹿に別の意味での誇りを感じるのではないかと思います。</p> <p>それから、だいぶ前になりますが、私はお城を見るのが好きで、以前、伊賀上野城に行ったときに、天守閣の天井に数十名の日本でも名の知れた方の言葉とか絵が掲げてありました。その中に来民の清浦圭吾さんの書がありました。それを見てびっくりしまして、そういうところでも繋がりができたらいいなと思いました。薩摩の方、鹿児島の方との繋がりもまた、山鹿口の戦いでの新たな繋がりがでてくるのではないかと思います。</p>
早田市長	<p>山鹿口の戦いを山鹿の人がどれくらい知っているかと思います。旧4町の人たちも全然知らないと思います。今、熊本市と連携中枢都市圏を結んでいます。向こうは植木があって田原坂が有名です。だからそういうことを熊本市と連携して山鹿口の戦いと繋げていくなどを教育委員会で考えていくような取組は大事だと思います。</p> <p>そういう中で薩摩との繋がりを熊本市の人も知ることになるし、山鹿の人も知ることになりますので、そういう掘り起しは大事だと思います。</p>

	<p>それと行政との係わり合い、連携ですね。それは予算が上がってきたときに、先ずは私の公約に沿ったものを上げてきているかというのが一番です。その次に、それぞれの部署の意気込みといいますか、財政課を説得してまでもやるんだという熱意が感じられません。だからそれに至るまでの調べで、こういう国の予算があります、こういう民間との繋がりでお金を持ってこれます、だからこれは可能ではないですかという熱い気持ちを受けたことがないです。財政からカットされたらそれで終わりみたいな感じになるから、さっき言いました、考えて考えてもらって、自分たちの課はこれをやりたいんだという、それを通常の業務があるかもしれないけども新しいことをどんどん上げてほしいです。そういう中ですればさっき言われたことも行政側も受け入れますし、基本は公約に沿ってするということです。</p>
堀田教育長	<p>冒頭に課長から八千代座を稼げる八千代座にするという話がありましたが、正しくそうだと思います。文化面をもっともっと輝かせるには先ほどPRが足りないという反省をしましたが、例えば茶山唄が全国大会であるか何人の人たちが泊まっているのか、何人の人たちがお茶を買って帰っているのかなど費用対効果がないと補助金ばかり頼っていても、そのうち弱まっていくと思います。</p> <p>文化面は稼ぐということが弱いのかもかもしれませんが、立山委員は宮古島と繋げたいとかなりの経済効果を狙っておられます。そういうのをきちんとやらないと、やがて廃れていくのかと、なんでもどうすれば儲かるか考えながら輝かせるという両方の考えをもっていかなければ、単なるこの行事をやりますでは、人は要った、お金は要ったけど経済効果は何もなかったではですね。</p> <p>この行事をすることでこんな費用対効果があるということを常に考えていく。だから先ほどの茶山唄を八千代座ですということはずごいと思いました。そうすることでかなりの人が八千代座を知ってもらって、ひよっとすると泊まれるかもしれません。そういうことを常に考えていくともっと文化面も輝き発展すると考えています。</p>
立山委員	<p>同級生たちと前から考えていたのが、チブサン古墳やいろんな文化遺跡を見て、ホテルに宿泊して4千年の歴史のある菊池川に屋台船とかを浮かべて、そこで茶山唄とかを唄ってもらったりして、そういった観光で民間と協力しながらやっていこうかという話はしていました。</p> <p>そういったのもやはり民間が盛り上がらないと、こういうことは進まないと思います。あとはそういった文化施策で盛り上がっている行政もいっぱいあると思いますので、そういうところの視察とか、こういう会議に民間の方も参加できるような形にしていったほうがいいのではないかと思います。</p>
早田市長	<p>民間の活力ですね。文化になりますと、まだどうなるか分かりませんが文化課を設置していかないと、特化して進めていかなければいけないかなと思います。それは検討しておりますが、特に山鹿は装飾古墳がこれだけ集中して日本遺産になって、県の装飾古墳館もあるのにもう少し光を当てたほうがいいのかという思いがあります。</p> <p>例えば文化課を作って、方保田東原発掘班とか、総合資料を早く作って、総合資料は最低でも3年は掛かって、それを作らないと発掘ができないです。だから民間の富田先生たちが作って民間の土地を借りて、そこをクラウドファンディングでお</p>

	<p>金を集めて発掘しています。その方たちも行政を応援しますから総合資料を作りたいという話になってきています。</p> <p>だからそこを発掘して国宝級がでてくれば、日本だけではなく世界から注目を浴びる山鹿市になります。</p> <p>ですので、ずるずるいくのではなくて、集中してやるだけやって3年後4年後5年後可能性がなければ、また次の事業に進むとかですね。だから可能性があるものをとことん突き詰めてやる、それがこの方保田東原遺跡には非常に可能性があると思います。そういう集中してやることと、一般の人たちが文化に馴染む母体をしっかり作っていくことを考えていく必要があると思います。</p>
野口委員	出土品などはデータベース化して出来上がっていますか。
井上社会教育課長	<p>書面上は作ってあります。パソコン上で一つ一つのデータの管理はしていません。発掘調査をすると調査報告書を作りますが、その時のデータ関係は報告書の中で資料として保存しています。</p> <p>データ管理になってきますと、例えば他所からアクセスがあれば公開することもできると思いますが、それはできていません。</p>
野口委員	なぜですか。
井上社会教育課長	日々の通常の業務でなかなかそこまで回らないという状況です。
野口委員	<p>こういうものは昔から引き継いできたものを未来に繋いでいかなければならないという話がいつもでてきますが、その管理そのものができていないのであれば、せっかくの宝庫ですよ、そこをしっかりお金ももらって整理しないと次が来た時にやれないと思います。</p> <p>ですので、やらないといけないことをしっかりやった上で、次を乗せられるようにしておかなければならないので、最初私が来たときにも博物館云々があったときに出土品のセンターに行って見させてもらいましたけど、バーンとしています、外から見ても、それで話をきいたら中の方も分類からデータベース化までされてないということだったので、それはやっぱり先ず基本として、そこを押さえておかないと何もできないのではないかと思います。</p>
堀田教育長	さっき言われたように、職員だけではもう一杯一杯になっていますので、ほかの人の力を借りるとどうにかなるかもしれません。退職した人などとても詳しい人たちがいらっしゃいます。上手く人を使えば、どうにかなるかもしれません。
上田委員	社会教育課が取組んでおられることは本当に範囲が広いです。いろんな事業をよくやられていると思います。病気になりませんかと言ったこともあります。市長がおっしゃったように、是非ですね文化課の設置をお願いしたいと思います。
早田市長	さっき言いましたふるさと大使の富田先生という方がおられます。あの方が組織を作っておられます。その会長には中嶋前市長がなられています。ゆくゆくは、もしも蒲島知事が知事を辞められたなら、そういうのにも入ってもらえたら、元鹿本高校の考古学です。今、県にも話していますのは、鹿本高校に考古学ができないかということです。掘るところも近くにあるし、そういう課を作ったら全国からマニアの子供たちが考古学をやりたいと集まってくるのではないかという話もしていました。

野口委員	部もあるのですか。
井上社会教育課長	鹿本高校も形だけと言いますか、部員が居ないそうです。顧問の先生もいらっしやいません。ですから顧問の先生が居て、部員が集まってくれば復活されると思います。
早田市長	考古学科ができないかと思えます。 それから、国際交流ですが、オーストラリアのクーマと取組んでいます、あまりこれまでクーマ市とご縁が無かったものですから、そろそろどうなのかという気がしています。
野口委員	今はできないかもしれませんが、国際交流というのは映像もありますけど、やはり現地に行って、現地の生活をして、そして気づくことがいっぱいあります。その前提として自分のことを知っておかなければいけない、山鹿のことを知って、日本のことを知って行かないといけないんですが、やはり経験させるということは非常に大事なことだと思います。だからその経験することができる、そこは残してほしいです。せっかくクーマ市の相手があるのであればですね。
早田市長	なぜ、クーマなのかということも見ましたが、人と人との繋がりが最初はあったような感じですが、クーマで良いのかという感じはします。
野口委員	治安が安定していますよね。
園田教育部次長	私も一回行かせていただきましたが、非常に治安もしっかりしていますし、向こうのライオンズクラブさんが主となって受け入れをしてくださるので、そこもしっかりした答えがありますし、また、すぐ近くに高校と中学校6年分の大きな学校がありますので、非常に交流するには良いところだと思います。 ただ、非常に広い地域にいきますので、真ん中からホームステイのところまで30分掛かるところもありますので、その点だけは気になるところですが、後は交流する、経験を積むところであれば良いところかなと思います。
野口委員	新しくどこかを探すというのはまた大変なことですね。
堀田教育長	もともとのスタートは日豪協会になります。これにライオンズものっかってきています。今は主体が市になっています。山鹿市社会教育課が主体になっているから、先ほどおっしゃるように、これからグローバルの時代ですので、取組としては非常に素晴らしいことですが、全部こっちが主体でしている、ある時ライオンズクラブの方にも話をしました。日豪協会の方もこの間これをするということでおみえになったからですね、そういう人たちももっともって一体となることができるなら良いですが、全部こっちに丸投げになっているので、続けるのであれば考えなければならぬと思います。日豪協会と話し合いを持たなければならぬと思っています。
野口委員	予算を取るためには、そういう話をしてこっちからこう来ますからという話をしないと予算はとれないと思いますが、ただ、子どもたちがそういう外国に行って、そこで生活ができると、経験ができるということだけは残してもらいたいです。
早田市長	それは私も経験上良いことだと思います。ですので、スタイルといますかやり方ですね。やり方がこのままで良いのかというのはありますね。
野口委員	予算が付くために何をどうするかは教育委員会で考えるでしょう。
早田市長	例えば、鹿本高校がスーパーサイエンスでやっていて、東大よりレベルが高いところとモニターでのやり取りをしています。ですので、勉強して優秀な子がそのの

	<p>大学に入りたいというときに、例えば市が補助金を出して送り出すとかですね。県はそのスタイルでされていると思います。</p> <p>鹿本高校としても東大よりレベルが高い大学に鹿本高校から行けるなら、それもいいPRになるし、本人としても国際的な人材になっていくと思います。そういうのも大事だと思います。</p>
堀田教育長	そこに鹿本高校から推薦でいけるのですか。
早田市長	<p>それができないかという話です。交流はされていますので、そういう枠を設けてくれるなら鹿本高校に優秀な子が入ってくるのではないかと思います。</p> <p>それでは、時間になりましたが、他にご意見はございませんか。</p>
教育長、委員一同	ありません。
早田市長	<p>それでは、次にその他へ移ります。</p> <p>次回開催について、説明をお願いします。</p>
佐藤教育総務課長	<p>次回は2月に開催を予定しております。</p> <p>議題につきましては、本日のご意見をもとに検討させていただきます。</p>
早田市長	<p>それでは、本日は大変貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。</p> <p>以上で議事を終わります。</p>
徳永教育総務課企画係長	<p>本日の会議の全日程は終了いたしました。</p> <p>これをもちまして、令和4年度第1回山鹿市総合教育会議を終了します。</p>